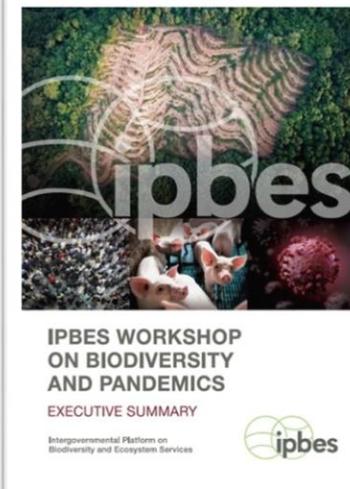


パンデミックと生物多様性ワークショップ報告書※(2020)のポイント

- パンデミックの根本的な原因は、土地利用の変化、農業の拡大と集約化、野生生物の取引と消費などの生物多様性の損失や気候変動を引き起こす地球環境の変化と同じである。
- 感染症対策について、従前の事後対応から、予防を行う「社会変革 (transformative change)」を促す政策オプションが必要。

※新型コロナウイルス感染症を受け、急遽2020年7月27～31日にパンデミックと生物多様性に関するワークショップがオンライン開催された。当該ワークショップには、22人の専門家が参加し、本報告書は、その結果をまとめたもの(2020年10月公開)。なお、本報告書はIPBES総会の承認を得たものではない。



【現状】

- ほ乳類や鳥類を宿主とするウイルスとして、170万もの未発見のウイルスがあることが推定され、そのうち54万～85万のウイルスが人間に感染しうる。
- 1960年以降に報告される新規感染症の30%以上は、土地利用の変化（森林破壊、居住地の拡大、穀物や家畜生産の拡大、都市化）がその発生要因となっている。
- 感染症は年間3兆ドル以上の経済的損失をもたらす。

【提言】

- パンデミックを予防する対策（野生動物の取引の削減や土地利用変化の抑制などの戦略や、ワン・ヘルスによる監視の強化など）の強化。（その費用は、パンデミックにより引き起こされる経済的損失と比較して1/100）
- パンデミックのリスクを低減し、対処するために役立つと思われる政策オプションの例
 - ハイレベル政府間会合の設立、政府内でのワン・ヘルス・アプローチの制度化
 - 人獣共通感染症のリスクを減らすために国際的な野生生物取引において、「保健及び貿易」に関する新たな政府間パートナーシップの構築